

全国図書館大会に参加して

立川由美

10月25日から沖縄で開催された第86回全国図書館大会に参加しました。4年前に大分で開かれたときは、スタッフとしての参加でしたので、全体を通して参加するのは初めてでした。さすがに沖縄は暑く、空港を出たとたん、30度近い気温に驚きました。

3日間の日程で、1日目の開会式では、宇佐市民図書館が日本図書館協会建築賞を受賞されました。また、韓国、朝鮮のそれぞれの図書館協会の代表者の挨拶があり、この大会の目玉のひとつだったと思います。2日目は、公共図書館、学校図書館、児童・青少年サービス、資料保存など、全14の分科会に分かれて、討議が行われました。14もテーマがあるとどれに参加するか大いに迷うところなのですが、今回は思いがけず事例発表をさせていただくことになり、おそらく自分からは選ぶことのなかった「図書館員養成」の分科会に参加。司書の養成が始まって今年で50年ということで「図書館学教育の外部評価」というテーマだったので、私を含め3人の現職者の事例発表があり、私は公共図書館員の立場から見た司書講習や司書課程などの図書館学教育についての発表をしました。

私が司書講習を受けたのは6年も前のことですし、お話をいただいたときは「沖縄には行きたいけれど…困った！」と思いました。私一人の意見では限りがあるので、大分県内の公共図書館職員の皆様にアンケート調査をお願いし、学んだことで役に立ったこと、立たなかったこと、あればよかったと思う科目、司書資格についての意見などを答えていただきました。記述式の面倒なアンケートだったにもかかわらず、多くの方が丁寧に回答してくださり、おかげさまでよい資料を作ることができました。この紙面を借りてお礼を申し上げます。ただ、せっかくの意見を「現場の公共図書館員」の意見としてうまくまとめて伝えられたかどうか心配です。もともと人前で話すのは苦手で、最近大勢の前で話したのはおはなし会でのストーリーテリングくらいだったので、かなり緊張しました。何はともあれ、無事に終わってほっとしています。最終日の3日目は全体会で、各分科会の報告と全体での討議があり、全国から様々な館種の人が集まり、いろいろな問題が取り上げられていることを実感しました。ほかの分科会も覗いてみたかったです。

大会終了後、沖縄県公文書館と豊見城村立中央図書館を見学しました。公文書館は聞いていたとおり素晴らしく、公文書館のイメージが変わりました。沖縄らしくシーサーが屋根にのっていた図書館では、表紙見せの絵本架の多さや、親切な案内板にも感心しましたが、たくさん来ていた子どもたちが、私たちにも口々に挨拶してくれたのと、このあたりでは見たことのない色のトカゲを見せてくれたのが印象的でした。

そして、同じ九州でもなかなか訪れるチャンスのなかった沖縄。名前を聞いただけではどんなものか見当もつかない郷土料理、市場で見たとても食用とは思えない極彩色の魚、もう少しお酒に強かったらよかったと思った泡盛、優雅な琉球舞踊などなど珍しいものばかりでした。残念ながら泳ぐには時期外れでしたが、生まれて初めて海に沈んでいく夕日を見て感動しました。

図書館大会にも、沖縄にも、ぜひまた行ってみたいと思います。

(たちかわ ゆみ 大分県立図書館)